

ために、開業間には周辺の花壇整備や環境美化に取り組んできましたが、懸念していた開業後の周辺の交通事故や住民とのトラブルなども特に聞かず、心配事が一つ減りました。



福澤町内会連合会副会長

笠井専務理事

多文化共生は開基から

開業前の1年間、テレビなどさまざまな媒体で周知が積極的になされていくように見えました。道内各地の道路情報用電光掲示板に表示されたウポポイのPRが印象に残っています。私たちJICは社会貢献を一番に勉強させていただく団体です。その中で町内のさまざまなことを勉強する機会を設け、これまでもアイヌ文化を題材にした例会を数多く行い、旧民博学芸員との交流や、白老開基の歴史を

元陣屋資料館で学ばせていただきました。その開基の歴史を振り返ると、やはりそこにはアイヌと切り離せない深い関わりがあると認識しました。開基以来の状況を想像すると、町長がおっしゃられていた多文化共生の考え方は既にあったのではないかと考えに至りました。晴れの開業を迎え、実際にウポポイを訪ねてまず感じたのは、国立民族博物館の圧倒的な迫力です。そして館内は学術施設に特有のアカデミックな雰囲気はなく、展示品を引き立てる近未来を思わせる内装、演出に非常にひかれました。開業のその時期にこのまちにいられたことを大変うれしく思います。



笠井青年会議所専務理事

開業

戸田町長

大きな可能性を再確認

ウポポイは新型コロナウイルス感染防止のため、事前予約制、体験プログラムの中止、と随分影響を受けました。このようなコロナ禍で11月末現在で入館者数が約18万人、このうち修学旅行などが約4万2千人を占めています。アイヌ民族の歴史と文化に関する正しい理解が促進される、非常に可能性のある施設と認識しています。町としても町民年間パスポートの発行、ネット予約のサポートなどに取り組んでいます。町民がウポポイに親しみをもち、「アンバサダー」(応援者)になった気持ちで来訪者のおもてなしするきっかけになればと考えています。ポロトミントラにおける数カ月のロングランイベントも実施してきました。令和2年度上半期の観光客数はウポポイの集客もあり3年ぶりに100万人を超えました。併せて公共交通機関を見直し、ウポポイの波及効果を町全体で享受でき

るよう取り組みたいと思っています。

岡田副理事長

目的の実現、機能発揮はまだ

コロナ禍の中にはありますが、期待を込めて言わせてもらおうと、アイヌ民族に対する理解の促進という点ではまだ十分に機能しているようには見えません。国は博物館の設置目的の一つとして、アイヌ民族の誇りの回復を挙げていますが、その目的が達成されているとは感じる事ができません。町の商業関係からも活性化のための効果が上がっていないと聞きます。ではどうすれば町民にとって親しみのある場所となり、町の元気につながっていくかを考えなければいけないと思います。

福澤副会長

まち全体の一体感を

オープン時は新型コロナウイルスの拡散が非常に気になりましたが、数カ月を経ても見られず、関係者の皆さまが万全な受け入れ体制に努力しているのが感じられま